研究室めぐり〔XII〕

北海道大学理学部物理学教室

北大の物理学教室に宇宙物理を研究するグループが創設されたのは，岡山天体物理観測所の開設と同じ年の1960年です．この頃は，我国で天体物理が一つの学問分野として定着した時期にあたり，基研を中心に全国的規模で活発に天体現象の共同研究がなされました．

当研究室は 20 年の歴史を持ちますが，規模は大変小さく，1967 年にスタッフ 1 名の増員があっただけで，現在の研究室メンバーは，スタッフ 3 名（坂下，池内，兼古），研究生（いわゆる OD）3 名，それに大学院生 3 名の計 9 名にすぎません．研究室の行事として，毎週木曜日の午前は新着雑誌の紹介，午後は研究室会議と各自の研究の発表と討論が行なわれています．この他に，週一回程度のゼミナールや，夏休み冬休みを利用した集中ゼミナールも行なわれています．当研究室を創設された大野陽朗教授は，1977 年 4 月に退官されましたが，これらの行事には出席しています．また，年に一度他大学から講師を招き集中講義をお願いしていますが，最近では大学院生を対象とするものが多く，学部学生は宇宙物理の講義をきく機会がほとんどありません．

現在とりあげている研究テーマは，対状電波源の形成，銀河や銀河団へのガスの降積り現象，銀河と銀河間ガスとの相互作用，超新星の爆発と銀河の構造，相対論的爆発現象，銀河中心核からのガス放出，等，宇宙気体力学に基づく理論的研究が大半を占めています．これらの研究に利用している北大計算センターのコンピューターが，今年の 10 月，FACOM 230-75 から HITAC M-200 へと機種換えが行なわれ，性能が飛躍的に向上しました．大規模な計算も，予算しだいでは可能になりました．

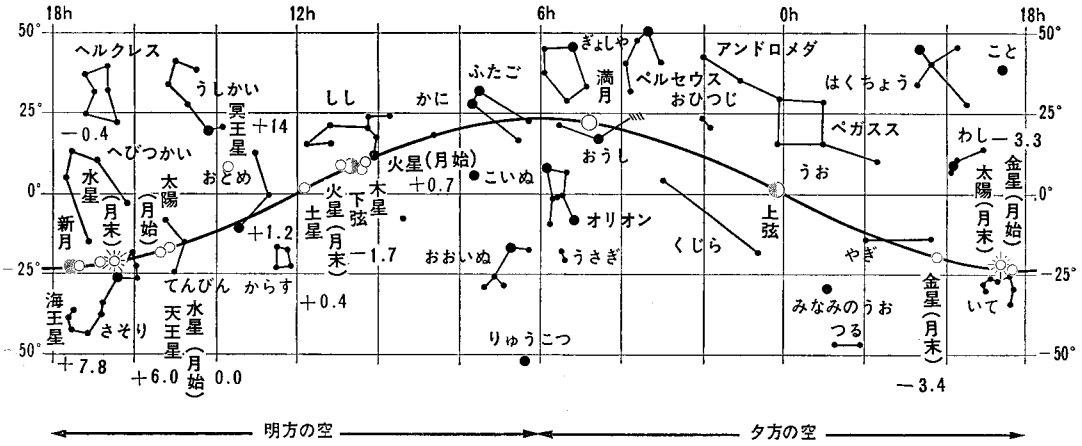
10 年ほど前から，岡山天体物理観測所の 188 cm 鏡を使用して，細々とではありますが，セイファート銀河の観測も続けています．研究室の所有する測定機は，島津のコンパレータと日本光学の万能投影機のみで，ミクロフォトメータは教養部にあるナルミ製を利用しています．パロマーのスカイ・サーベイ・アトラスは購入中です．

研究室の将来計画として，少なくともあと 2～3 名のスタッフの増員と，天体観測施設を持つことを希望しています．

（兼古　昇）

☆　☆　☆

◇ 12 月 の 天 文 暦 ◇

日	時	記　事	
4	3	**望**	
8	1	水　星	西方最大離角
8	2	大　雪	（太陽黄経 255°）
11	20	月	最遠
11	23	**下　弦**	
13	5	海王星	合
19	17	**朔**	
22	20	冬　至	（太陽黄経 270°）
24	1	月	最近
26	14	**上　弦**	
27	14	木　星	留

◇12月の日月惑星運行図◇